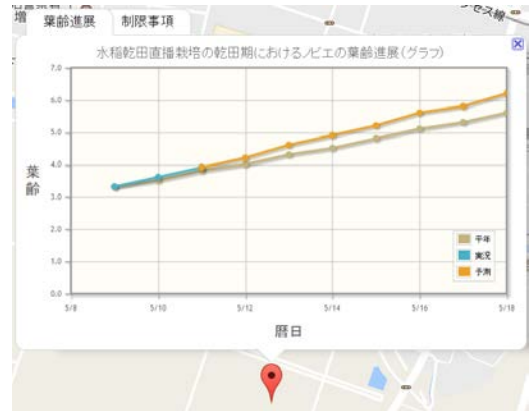
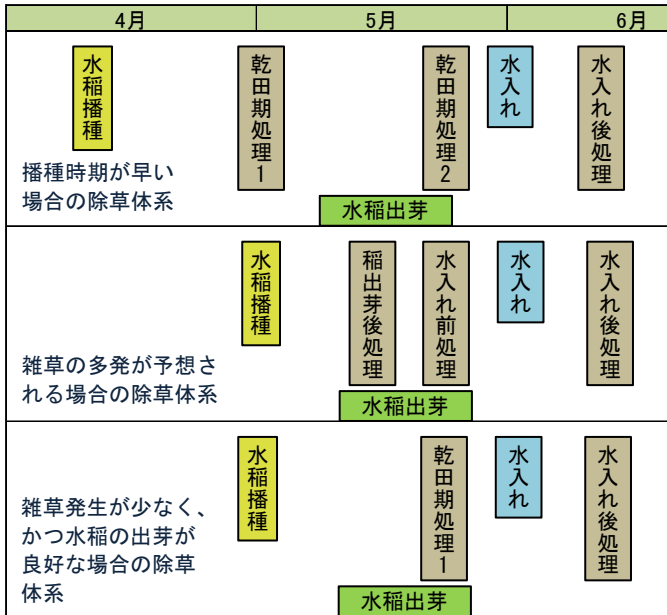


プラウ耕・グレーンドリル播種による 乾田直播水稻の除草体系

技術の概要

- 最大で、乾田期2回の茎葉処理剤、水入れ後1回の土壌処理剤(いわゆる「一発剤」)の計3回の除草剤体系により良好な雑草防除が実現できます。
- 水稻播種が早い場合(4月半ば頃まで)には、乾田期1回目の処理は、水稻の出芽前に非選択性除草剤を、2回目の除草剤散布として入水前に選択性除草剤の使用が有効です。
- 播種時期が、それ以降の場合は、水稻出芽後に2回の選択性除草剤の使用が有効です。雑草発生が少なく、かつ水稻の苗立ちが良い条件では乾田期の除草剤散布を1回省略できる場合もあります。
- 選択性除草剤はノビエの5葉期までに散布します。散布時期の決定は岩手県立大学と農研機構が提供する「Google Mapによる気象予測データを利用した農作物警戒情報」(要登録)上の「乾直のノビエ葉齢進展」をご活用ください。



乾直のノビエ葉齢進展による予測結果: Google Map上で圃場を選択し、観察日とその時のノビエの葉齢を入力すると、その後のノビエの葉齢進展をメッシュ気象予測値を用いて出力する。

詳しくは

期待される効果

○除草剤の補正散布のための、資材費、散布経費が3200円/10a程度節減できます(補正散布としてノビエ除草剤のラジコンヘリコプターによる1.5kg処理を想定)。

【お問い合わせ先】

農研機構東北農業センター

企画部産学連携室 広報チーム 電話: 019-643-3414

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。